月刊みんぱく 2019 1月号

編集後記

今月は新年号ということで凧の特集とした。幼少期を愛知県で過ごした小生は、名古屋城の金鯱（きんしゃち）泥棒の逸話を明治生まれの祖父より耳にしたことがある。江戸時代に名古屋城の天守閣から金鯱を盗んだ盗賊がおり、大正時代にも凧には乗らなかったようだが金の鱗（うろこ）を狙う泥棒が出たということであった。少し検索してみると（特に名古屋市鶴舞中央図書館のレファレンス事例詳細は参考になった）、大凧の逸話は江戸時代の盗賊・柿木金助（かきのききんすけ）の伝説で、史実と異なり、彼の盗みは歌舞伎「傾城黄金鯱（けいせいこがねのしゃちほこ）」によってひろく知られる。もっとも、ある研究によると、歌舞伎に大凧のシーンができたのは明治以降とのこと。重たい金を懐にいれたら城から逃げるときに凧に乗れないだろうにと子ども心に思ったものだが、余計な心配だったようだ。なお明治 21 年に刊行された『柿木金助実伝』という作品には名古屋城ではなく清洲城の天守閣に足をかける柿木金助の挿絵が掲載されている。晩年に清洲に居を構えていた祖父が生きていたら、正月のいい話の種になったのだが。（丹羽典生）

【追記】2018 年 12 月号「特集」P6 下の写真の撮影者は、
山本紀夫 本館名誉教授です。

●表紙：左から順に
1、インド・パキスタンの凧（撮影：小西正捷）
2、インドネシアの凧（H0005913）
3、インドネシアの凧（提供：世界凧博物館東近江会館）
4、グアテマラの凧（H0200526）
5、タイの凧（H0028763）
6、タイの凧（H0005844）

次号の予告

特集

「南アジア、弦の響き」（仮）

みんぱくをもっと楽しみたい方のために

国立民族学博物館友の会のご案内

友の会は、みんぱくの活動を支援し、博物館を楽しく積極的に活用するためにつくられました。
毎月『月刊みんぱく』をお届けするほか、さまざまなサービスをご用意しております。

維持会員・正会員
『月刊みんぱく』の送付／友の会機関誌『季刊民族学』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加／研究者同行の国内外研修旅行への参加　など

ミュージアム会員
『月刊みんぱく』の送付／本館展示の無料観覧／特別展観覧料の割引／友の会講演会への参加　など

繰り返し入館できる**みんぱくフリーパス**や、学校・学部単位で利用できる**キャンパスメンバーズ**など各種会員種別もございます。目的にあわせてご利用ください。

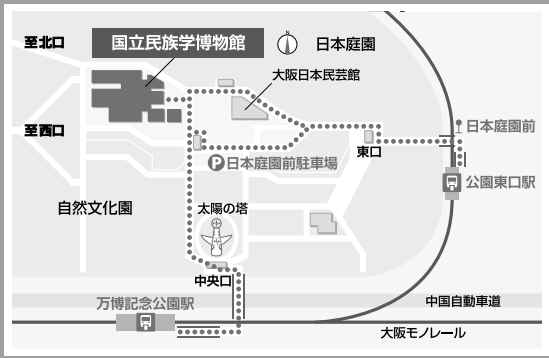
詳細は、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
（電話 06－6877－8893／平日9:00～17:00）

月刊みんぱく 2019 年 1 月号
第 43 巻第 1 号通巻第 496 号　2019 年 1 月 1 日発行

編集・発行　人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話　06-6876-2151

発行人　園田直子
編集委員　丹羽典生（編集長）　寺村裕史　三島禎子
南真木人　山中由里子　吉岡乾
デザイン　宮谷一款　長岡綾子
制作・協力　一般財団法人 千里文化財団
印刷　毎日新聞社

＊本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
＊本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内
●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
●阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
●乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。
●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れできます。

みんぱくホームページ　http://www.minpaku.ac.jp/
みんぱくフェイスブック　https://www.facebook.com/MINPAKU.official
みんぱくツイッター　https://twitter.com/MINPAKUofficial
みんぱくインスタグラム　https://www.instagram.com/MINPAKUofficial/
みんぱくYouTube　https://www.youtube.com/user/MINPAKUofficial

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology